

高齢者住宅新聞

2019年5月29日号（第542号）7面

施設で水耕栽培

農業で社会とつながり

ヒューマンホールディングス傘下のヒューマンライフケア（東京都新宿区）は、高齢者施設の屋内で野菜を育てる「水耕栽培プロジェクト」を開始する。実施においては玉川大学の監修を受けて、取り組みやすい方法を推進する。

ヒューマンライフケア



経営管理室
ジュニアマネージャー
田島哲志

同社では低コストで月に最大189株収穫できるオリジナル水耕

栽培キットを開発。2月からトライアルとして東京都、埼玉県、千葉県、大阪府の一部施設で小松菜や水菜など「水耕栽培に取り組んでいる。水耕栽培は土を使わずに、屋内でLEDライト、水、液体肥料のみで野菜を育てる栽培方法。天候などの外的環境に左右されることなく、無農薬で栽培できる。種まきから収穫まで栽培行程が簡単なので、高齢者でも取り組みやすいという。



水耕栽培の様子



オリジナルキットを開発

経営管理室の田島哲志ジュニアマネージャーは「水耕栽培はオペレーションが簡単で、農業を身近に感じていた世代である利用者が親しみやすく参加しながら、社会とつながることができると感じた」と語る。

利用者は、種まき、間引き、収穫をレクリエーションで行う。水を換える作業は利用者の状態に応じて利用者が行うケースもある。LEDにはタイマーがついており、施設のスケジュールに合わせて点灯する仕組み。

試験的に実施している施設では「今までレクに参加しなかった人が参加するようになった」「作物の成長が楽しみになり、利用者が自分から作物に霧吹きをするようになった」という声がある。収穫した作物は施設で調理したり、ギフト袋に入れて利用者、家族などに渡したりしている。また、施設のスタッフがケアマネジャーに渡してコミュニケーションツールとしても活用されている。

「利用者に自信をつけてもらうために、こちらが指定した育てやすい作物を育てているが、花を育てたいなど、利用者が要望がある。本部で様々な作物で実験してラインナップを増やしていきたいと考えている」

今後は同社が運営する全国の施設に導入を検討しており、介護・農業が協働した取り組みを創出することで、人材確保につながることを目指すという。